

平成 30 年度かながわ 3 R 推進会議
食品リサイクル等推進部会 会議録

日時 平成 30 年 11 月 28 日（水）10:00～12:00

場所 かながわ県民センター 305 会議室

1 開会

出席委員数 9 名

2 神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課長あいさつ

3 議 題

- (1) 食品ロス削減および食品リサイクルを促進する方策への対応状況について
- (2) 来年度の事業について
- (3) 今後の本部会の進め方について
- (4) その他

<事務局>

「食品廃棄物 事業系のリサイクル促進にかかる事業」及び「食品ロス削減・食品リサイクル取組推進セミナー」についての説明は以上です。ご意見等ございますか。プロジェクトチーム（PT）にも入っている金田さん、高橋さん、いかがでしょうか。

<金田委員>

事業が進み出したと実感しています。処理業者から言わせていただくと、消費者の分別がとても大切です。ごみの品質によって変わることをよく理解してほしい。

J バイオは JR 東日本と JFE 環境が共同出資して設立した施設です。メタンガスで発電するものですが、メタンガスは何でもいいわけではありません。たとえば納豆は駄目だとか、そういうことがあるようです。メタンも菌なので、それを殺してしまう菌は入れられないそうで、結構細々と注意しなくてはならないことがあるので、それをきちんと知っておく必要があります。

<高橋委員>

啓蒙活動はずいぶん行われてきていると思いますが、理解してほしいことが 2 点あります。まず腐敗と発酵は違うということです。堆肥の成分を安定させるためには色々な努力をしておりますが、腐敗したものは入れられないので分別が必要です。

そして、よく処理単価についての話がありますが、リサイクル事業者が処理単価を行政の処理単価以下にすることは難しいのが現状です。施設のメンテナンス等の関係で処理ができない場合には行政に回すこととなりますが、そのときにリサイクルの処理単価が行政の

処理単価以下である場合、足が出てしまいます。だから、行政の処理単価が上がればリサイクルが進むかといえば、必ずしもそうではないということを理解してほしい。

<相原委員>

農家でも、小規模のバイオガス発生プラントを持っているところがあります。発生させた電気は家で使ったりしていますが、副産物として出る液肥も活用しています。Jバイオではそうした副産物はどうしているのですか。

<事務局>

現在のところ、液肥は下水道処理をしています。固形物はJFE環境で焼却していると聞いていますが、パンフレットを見ると、将来的には活用を検討しているものと思われます。

<金田委員>

Jバイオについて補足すると、現在の処理量は処理可能量の50%で、3年をめどに100%稼働まで持っていく予定だそうです。目下、メタン菌づくりに試行錯誤しているところで、どういうものであれば処理できるのか、どういうものは駄目なのかを実験しているようです。例えばチョコレートを大量に投入すると詰まってしまうようです。こういった施設は臭いを気にするものですが、Jバイオは埋立地に立地しており、周囲に民家がありません。

先ほど高橋委員が「腐敗と発酵は違う」と言いましたが、メタンガスの発生においても同じであるようです。腐敗しているものが入ってしまうとメタンガスは発生しません。矛盾しているようですが、腐敗していないものを入れて腐敗させることで、メタンガスが発生するのだということです。

<藤乗委員>

神戸市についてですが、この事業はテストではなくすでに本格稼働しているのですか。

<事務局>

すでに実施しています。

<藤乗委員>

リサイクル率が上がったなど事業の効果はあるのでしょうか。

<事務局>

神戸市の特徴として、市が収集しているもの以外でも、事業系廃棄物の発生量を把握しているというものがありますが、事業実施前後での効果については不明です。

<藤乗委員>

この取組は行政としての評価は高いのでしょうか。これができるのであれば、効率は格段に上がると思うのですが。

<事務局>

本県としては評価できると考えています。我々としては、排出者がリサイクルに踏み出す敷居を下げたいと考えており、それには分別のしやすさなども重要だろうと考えています。一方、平塚市や産業資源循環協会とのワーキンググループの中では、処理後の出口の部分も同時に考えなくてはならないとの意見をもらいました。

先ほどの J バイオの例で言うと、JR 東日本という排出者と JFE 環境という処理業者が共同出資しています。このように、関わる者がそれぞれ何かしらの協力関係を構築しなければ、事業は軌道に乗っていかないと考えています。絵に描いた餅で終わらないためにも、きちんと足元を固めながら話を進めていきたいと考えています。

<金田委員>

神戸市の話で気になるところがいくつかあります。分かればお教えてください。この事業によって、可燃物のリサイクル率はどれくらい向上したのでしょうか。また、排出量が少量から拠点を設けたということなのでしょうけれど、何社くらいが参加しているのですか。そして、これは確認が難しいかもしれませんが、各単価設定はどうなっているのでしょうか。市の処理単価、収集の単価などについて知りたいのですが。

<高橋委員>

どういうさじ加減で運営しているのか知りたいですね。事業化してからしばらく経っているのですか。

<事務局>

拠点に回収された廃棄物は翌日には集めているようです。事業化してから3年は経っています。神戸市は処理単価が1kg当たり7円と大変安いので、金銭的なインセンティブは関係ないようです。本県としては、平塚市でモデル実施する手法の一つとしてとらえています。

<藤乗委員>

場所の問題というのは大きいですね。やりたくてもリサイクラーが近くにいない、というのはよくある話です。こうした先進事例を積極的に採用していけば、リサイクル率は上がるのではないのでしょうか。

<横浜市>

平塚市の状況を把握していないのですが、平塚市では市が中心で行うのですか。それとも、神戸市のように中心となる組合があるのですか。

<事務局>

まだ具体的にはなっていません。

<金田委員>

仕組みが合うか合わないかは土地柄にも大きく左右されますからね。ぜひ、神戸市の取組については情報提供いただきたい。出来れば直接話を聞いて意見交換をしてみたいですね。こちらが行く形か、来てもらう形かはわかりませんが。具体的な事例を聞くと、話も具体的になるのでは。そうしたことは可能ですか。

<事務局>

可能だと思います。

<横浜市>

食品リサイクル法に則れば、排出量が少量の事業者であっても、収集車が回って一定の量を確保すればよいので、収集するのは少し大変かもしれませんが、ある程度リサイクルはできると思います。なぜ、神戸市がこのようなシステムを取り入れたのか、あえて保冷庫を設置して行うメリットをどう考えたのかが気になります。また、廃棄物部局からすると、バイオガス化は有効な手法の一つだと思いますが、残渣も残りますし食品リサイクル法に掲げる優先順位や、SDGsに掲げる持続可能という観点から考えれば、堆肥化や飼料化が本来は望ましいと思います。

<高橋委員>

確かに、堆肥化だと80%減容できる一方、バイオガス化はほとんど減容化になりません。堆肥を行政が使用する等、何らかのインセンティブがなければ施設も増えないのではないのでしょうか。しかし、こうした施設はやはり設置場所の問題が大きいですね。我々も今でこそ近隣住民と円滑な関係を築いていますが、設置当初は理解を求めるのに懸命でした。

生ごみは下ろしただけで臭いが発生しますからね。基本的にシャッターの中で作業をするとはいえ、ごみを下ろすときにシャッターを閉めることはできません。臭気を防ぐのも限界があります。

<金田委員>

リサイクル施設の設置場所については周囲の理解が不可欠です。だからこそ、場所によって合う方法は異なり、その場所に合う手法を選んでいくべきですね。行政にはそのための情

報収集、情報提供を積極的にお願いしたいと思います。

<事務局>

神戸市について補足ですが、神戸ではもともと組合が発案し、先に処理業者や排出事業者の協力が得られていたようです。いただいた提案で、神戸市の取組を直接聞く場の設定については、また検討したいと思います。他になにかございますか。なければ、普及啓発事業に移りたいと思います。

何かご質問やご意見はございますでしょうか。

<藤乗委員>

クリエイティブクッキングバトル（CCB）には募集期間があったのですか。

<事務局>

ホームページで募集している期間がありましたが、基本的には各企業に声をかけて呼びかけたようです。県庁にもいらしたので、今回の参加に至りました。

<藤乗委員>

生ごみの量も評価基準とするという点がよく工夫されていますね。我々小売店としても、消費者の食品ロス削減意識をどのように高めていくかが重要だと常々感じています。家庭でやってみようと思えるような、こうした取組は面白いですね。

<金田委員>

局長自ら出ているとは。トップが出ているのが大切だと考えているので、評価できます。

<事務局>

普及啓発について、来年度以降どう行っていくのがよいか、ご意見を伺いたいのですがいかがでしょうか。

<相原委員>

CCB を広げていくのはどうですか。料理教室は山ほどありますが、レシピありきの教室ばかりです。農家と連携した料理教室も多いので、うちも協力していますが、材料だけの料理教室を開いてくれないかという声はよく聞くのです。せっかくこうしたイベントに出たのであれば、行政担当者が外に出ていき、実演していくのはどうでしょう。

<藤乗委員>

横浜市でも食べきりレシピのようなものがありますね。難しい料理にアレンジしなくて

もよく、カレーのように「混ぜたらいい」という発想でもいいと思います。カレーは入れてしまえばみんな同じ味になる。そういう B 級料理のような形でも、食材を使い切ることを呼び掛けられないでしょうか。使い切れない食材はどの家庭にもありますから。

<石川委員>

「あるもので作る」というのがなかなか難しいのですが、とても大切ですね。

<横浜市>

横浜市でも、「丸ごと旬野菜～使い切りレシピ～」というものがありますので、もしよければご覧ください。しかし、料理研究家でもない行政の職員が不特定多数の食材を対象とした事業を行うというのは、現実的にはなかなか難しいと思います。

<金田委員>

県がやっている食べ物のイベントで呼びかけるのもいいですよ。この間も畜産フードコレクションでしたか、赤レンガの方でやっていたかと思いますが。例えばそうしたイベントの中で実施して、リサイクル認定製品でできた野菜を使うなどすると、より広がっていくように思いますね。

<高橋委員>

こうしたことは教育の場から実施できないでしょうか。ヘタまで食べられる調理法などを、家庭科の授業で子どもたちに実践させてみては。子どもたちに教えると、新しい発見という形ではなく、「そもそもこうあるものだ」という常識として植えつけられます。そうなるように働きかけていけるといいですよ。

<横浜市>

横浜市では既に教育現場で取り入れてもらえるよう、働きかけを行っています。

<金田委員>

どこの市でもそうかと思いますが、小学校4年生になると環境学習の一環として施設見学を行います。食べ残しが少なくなるような教育を進められないでしょうか。

<石川委員>

学習というのは大切ですね。先日、農家の方から、誰もズイキ（サトイモの赤い方）を買ってくれない、と言われて買ったことがあります。私はとても好きなのですが、今は主婦も料理法を知らなくなっているのでしょうか。ズイキは生でも食べられ、とてもおいしいのですが、知らないならば食べませんからね。もったいないなと思います。

<相原委員>

小学生に働きかけられるといいですね。私自身は記憶していませんが、母から聞いた話だと、私が小さいときにタバコの害を父親に訴え、父親がぱったりタバコをやめたようです。子どもから言われると大人も影響されます。部署が違うので難しいとは思いますが、教育現場に協力を求めていってほしいですね。

<金田委員>

食育、リサイクル、ごみを減らすということを、関連して学んでもらえたらよいのではないのでしょうか。

<藤乗委員>

今はSDGsという大きなテーマもあるので、動きやすい時期ではないのでしょうか。SDGsについては、日能研が問題集を作り始めているようです。ずいぶん分厚い冊子で、我々よりもSDGsに詳しい小学生が続出するのではないかと考えていますが、これからSDGsの問題が中学受験に入ってくるのは間違いないでしょう。

<事務局>

専門部会では、市町村へリサイクル認定製品を使った環境学習というのを発案したのですが、難しいという印象でした。

<高橋委員>

そういうことなら、個別にやっています。スプリングフェアで横浜市内の小学校の園芸部顧問と会い、環境教育の一環として話をしてくれないかと言われて行きました。

<金田委員>

リサイクル認定製品を知ってもらうことが重要ですね。

<事務局>

最後に、調査マニュアルについてご質問やご意見はございますでしょうか。

<金田委員>

非常によくできていると思いますので、ぜひ全市町村に取り組んでほしいですね。

<事務局>

次第の最後にあります、今後の本部会の進め方についてご意見いただければと思うので

すが、いかがでしょうか。普及啓発を進めるにあたり、広報等の専門家にも入ってもらい、あるいはヒアリングを実施するなど考えておりますが、ご意見がございましたらお願いします。

<金田委員>

そうした方に入っていただくことについては異論ありません。

<事務局>

畜産関係イベントでのPRや、神戸市の取組についての情報交換会など、実施できそうなご提案もいくつかご意見いただきましたので、参考にさせていただきたいと思います。本日は、活発な意見交換をいただき、ありがとうございました。本日の委員の皆様からいただいたご意見については、今後の県の方策に活かしていくよう検討したいと思います。なお、本部会の内容については、設置要綱第2条に基づき、7月開催予定のかながわ3R推進会議にて報告することとなっておりますので、御承知おきください。

今後とも、食品廃棄物の削減に係る課題につきまして、皆様とともに検討、協議を進め、それを実践に移していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。本日は長時間にわたりご協議いただきまして、ありがとうございました。以上をもちまして、会議を終了させていただきます。